

エゾハルゼミの生態

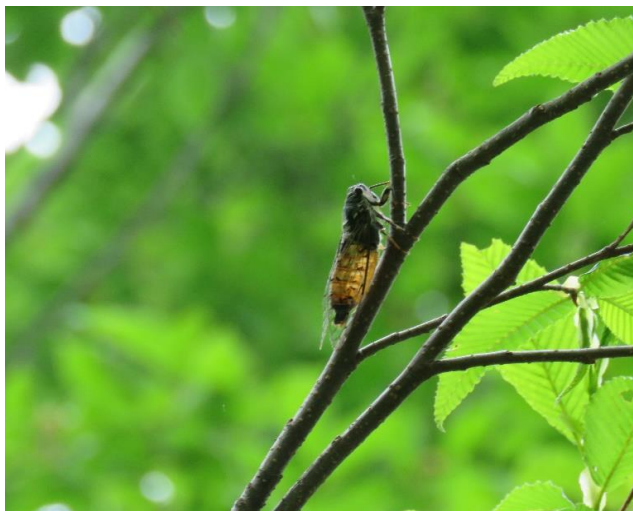
項目	説明
分類	カメムシ目(半翅目) セミ科ハルゼミ属
和名	エゾハルゼミ
学名	<i>Terpnosia nigricosta</i> (Motschulsky,1866)
分布	北海道、本州、四国、九州（生息南限は鹿児島県・宮崎県境の霧島山、鹿児島県の紫尾山とされている）。
形態	体長はオス31-33mm、メス22-24mmほど。体色は全体的に黄褐色だが、頭部・胸部はやや緑色を帯び、黒い線や斑紋の模様がある。同属のハルゼミより色が淡く、ハルゼミというよりむしろヒグラシを小さくしたような外見をしている。
生態	冷涼な地域の、ブナなどで構成された落葉広葉樹林に生息する。成虫はハルゼミより少し遅く、5月下旬から7月にかけて発生する。オスの鳴き声は「ミョーキン・ミョーキン・ケケケケ…」あるいは「オーギーー・オーギーー・オーギーーオ・キギギギギギ」と聞こえる。有峰では早い年で5月20日過ぎから鳴き始め、7月上旬まで聴くことができる。初期は日差しがあるときに限られるが、6月中旬には日差しの有無に関わらず鳴いている。



ミズナラの葉上で静止中のエゾハルゼミ♂



オオイタドリの茎で静止中のエゾハルゼミ♀



ブナの小枝で静止中のエゾハルゼミ♂



ツリバナの小枝で発見したエゾハルゼミの脱殻